

小さな一步を信じて

さいとう りゅうせい

西門川中学校 二年 斎藤 琉晴

「くじけないで。」僕はこの作品の題名をみたとき、昔の自分を想像した。そして僕は自分に問いかけた。「僕はいろいろなことに対して、あきらめることなく、たち向かっているのだろうか。そして、それらをしっかりとやりとげられているのだろうか。」と。その答えは、「できていない。」だった。僕は自分に失望した。だが、そんな僕を救ってくれたのも、やはりトヨさんの詩である。トヨさんの詩からは、「自分の人生を一つもあきらめていない。」ということがわかる。トヨさんは「自分ではできる。」と思っているからできるのである。僕は、「トヨさんは、すごい」と思った。僕の場合は、自分にできるかどうかが問題なのではなく、「やろう。」と思わないからできないんだ、と。

この作品から僕は、勇気をもらった。その勇気をトヨさんの詩が作ってくれたんだと思うと、ますますトヨさんのすごさが伝わってきた。そしてトヨさんのようになりたいと思った。そのためには、これから自分のすべきことをしっかりとしていかなければならない。そうしていく中で、いろいろな苦難があると思うがトヨさんの詩を思い出しながらその苦難をのりこえていきたい。そし